

関東高等学校サッカー大会茨城県大会							準決勝	明秀日立	対	第一学院
令和	4	年	5	月	7	日	戦評担当	所属	氏名	

第一学院からコロナ陽性者が複数人出たことにより、明秀日立が不戦勝（決勝進出）となった。

関東高等学校サッカー大会茨城県大会							準決勝	水戸啓明	対	東洋大牛久
令和	4	年	5	月	7	日	戦評担当	所属	氏名	

水戸啓明はSB・SHを高い位置に配置した1-4-4-2、東洋大牛久は1-4-2-3-1と1-4-3-3の変システムで攻守の対応しスタート。互いにディフェンスラインから丁寧にビルドアップし攻撃を組み立てていく。序盤、東洋大牛久が少ないタッチでボールを動かしていたため水戸啓明がプレスを掛けても連動が上手くいかずボールを奪えない。しかし、水戸啓明が対応し始まった18分ショートカウンターからボールを奪い先制に成功。その後、東洋大牛久は選手交代し中盤から斜めのボールでサイド奥のスペースを活用する狙いを明確にする。

後半入りから東洋大牛久は前線からの守備強度を強め、ボールを奪う位置に変化をつけて攻撃に出ていく。これが功を奏し、52分CK崩れからの混戦で東洋大牛久が同点ゴールを決める。その後も東洋大牛久は人とボールが連動したビルドアップ・ポゼッションでゴールを窺い、水戸啓明DFの隙を付きPK奪取し逆転に成功。終盤、水戸啓明も配置・立ち位置を変え反撃に出るも得点を奪えず試合終了。

今日に至るまで限られた時間のなかで準備をし連戦を勝ち上がってきた水戸啓明にはインターハイ・夏を越えた選手権での躍動に期待したい。

関東高等学校サッカー大会茨城県大会							決勝	明秀日立	対	東洋大牛久
令和	4	年	5	月	10	日	戦評担当	所属	氏名	

明秀日立1-4-2-3-1、東洋大牛久1-4-3-3の陣形でスタート。試合開始とともに明秀日立は前線から積極的にプレスを仕掛けボールを奪いに行く。対する東洋大牛久は明秀日立の積極的なプレスを恐れずビルドアップを試みるも、プレスを掻い潜れずショートカウンターを受けてしまう。終始相手陣内でボールを奪い力強く攻撃に出る明秀日立だが、東洋大牛久DF陣が粘り強く耐えスコアレスで前半終了。

東洋大牛久は後半開始より選手交代によって状況打開を試みる。51分明秀日立DFのコントロールミスを逃さず交代で入った東洋大牛久⑩岡田がボールを奪いラストパス、受けた⑩植田が一瞬の間をつき先制に成功。続く53分明秀日立は中盤でボールを奪い相手DFライン背後にボールを供給し⑦本橋が冷静に流し込み試合を振り出しに戻す。さらに攻撃に迫力を増したい明秀日立は⑦本橋が72分左サイドを突破しクロス、選手交代で入った⑩山賀がゴール前に走り込み逆転ゴールを決める。最後まで諦めない東洋大牛久はアディショナルタイム。奪ったボールをシンプルに攻撃に繋げ、81分⑨成島が値千金の同点ゴールを決め延長戦に突入。

迎えた延長前半、明秀日立が東洋大牛久ゴールに襲い掛かる。クロスからのヘディングシュートを東洋大牛久GK④野澤がビッグセーブ。続くCK90分に明秀日立⑤秋葉が押し込み決勝ゴールを上げる。

今大会、地区予選から勝ち上がり関東大会出場を決めた東洋大牛久は賞賛に値し、コンディションを整え本大会での活躍に期待するとともに、明秀日立は上位大会での活躍と今後の更なる飛躍を期待したい。